計画は保育に取り組む上でとても重要なものです。各年齢ごとの発達と必要な活動についてまとめました。  
一人一人子どもの発達過程や環境をふまえ活用してください。

年齢別カリキュラム

計画立案参考資料

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| おおむね6か月未満 | | 内容 | | 環境構成・保育士の援助 |
| ねらい（〇養護　●教育） | 〇ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で依存欲求を満たし、安心して過ごせるようにする。  〇気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。  〇一人一人に合った生活リズムの中で心身ともに快適に過ごす。  ●特定の保育士と触れ合い、安心して機嫌よく過ごし、愛着関係を築く。  ●安全な環境のもとで、腹ばい・寝返りなど、全身運動をする。 | 健やかに伸び伸びと育つ | **情緒の安定した環境のもとで過ごす**  ・保育士に抱かれてゆったりとミルクを飲み、安心して眠る。  ・おむつが濡れた時は交換してもらう。  ・体調の良い時は沐浴をしてもらう。  ・気温や室温に応じて、衣服を着替えさせてもらう。  ・一人一人の生活リズムや体調に合わせ、短時間の外気浴をする。  ・抱っこしてもらいゆったりとした揺れを感じる。    ・腹ばいになり、手足を十分動かして遊ぶ | ・優しく語りかけながら、授乳やおむつ交換を行い、心地よさが感じられるようにする。  ・睡眠時、環境条件や寝具のかけ方に注意すると共に、定期的に呼吸や顔色など状態を観察し記録する。  ・一人一人の発達を把握して生活リズムの安定を図り、落ち着いた環境の中で生活ができるようにする。  ・気候に応じて室内の温度・湿度・換気などの調整をし、快適に過ごせるようにする。  ・遊んでいる子どもの様子を見守りながら、子どものしようとしている姿勢の移動やその子どもの動きを妨げないよう援助し、子どものやりたい運動が十分にできるようにする。  ・這う、立つ、伝い歩きなどで自由に体の移動ができるように環境を整え、その動きや遊びがゆったりと楽しめるように見守りながら、共感したり、援助をしたりする。 |
| 子どもの姿・発達の特徴 | ・哺乳量が一定し、授乳時間がほぼ決まってくる。  ・空腹になったり、眠くなったり、おむつが汚れたりすると、泣いてぐずったりする。（快・不快がはっきりする）  ・1日に睡眠と目覚めを何度も繰り返す。  ・大人があやすと「アー、ウー」などクーイングが始まる。  ・上下左右に動くものを追視する。  ・首がすわり、うつぶせにすると両手で腹ばいになって上半身を起こす。  ・寝返り、腹ばいをしようとする。  ・人見知りが始まる。特定の大人と他の人の区別がつき、姿が見えないと泣いたりする。  ・保育士の声に反応したり顔をじっと見つめたりする。目が合うと微笑む。  ・人や玩具に向かって喃語が出るようになりあやしてもらうと声を出して笑う。  ・手を口にもっていったり、指を口に入れようとする。また、目の前の物をつかもうとする。  ・手に触れたものを握る。 | 身近な人と気持ちが通じ合う | **身近な人と過ごす喜びを感じる**  ・優しく語りかけてもらったり、目を合わせて泣き声や喃語に応えてもらったりする。  ・保育士にいろいろな歌を歌ってもらったり、ふれあい遊びをしてもらったりして喜ぶ。  ・大人の語り掛けに対して喃語で応えたり、声を出して笑ったりする。  ・優しく声をかけてもらったり、名前を呼んでもらったりすることを喜ぶ。  ・快、不快の気持ちを、声や泣き声で表す。  ・見慣れない場所や、人への不安感で人見知りが強くなり、いつも世話をしてくれる信頼できる保育士に対して強い愛着行動を示し、自分から関わろうとする。 | ・特定の保育士が、一人一人の子どもが出すサインや表情を見逃さず受け止め、優しい言葉や笑顔で応答的に丁寧に関わり、信頼関係を築く。  ・不快な感情を長引かせることのないように配慮する。  ・特定の保育士が抱いたり微笑みかけたりして甘えなどの依存欲求を満たし、ゆっくり穏やかに関わることで愛着心の基礎を築けるようにする。  ・身近な人とそうでない人の顔がわかるようになる時期なので、保育士は穏やかな表情で微笑みかけ、子どもの発した喃語にゆったりと語りかけるようにし一対一の関わりを大切にする。  ・目覚めている時は玩具を見せてあやすなど人に対する関心や周囲に関する興味が育つようにし、過剰な刺激は避け、子どもの気持ちに添って、一人で遊ばせる時と、しっかり相手をする時を見極めて、適切に関わるようにする。 |
| 身近なものと関わり感性が育つ | **身の回りのものに親しむ**  ・抱っこ、腹ばい、支えられて座るなど、体位を変えてもらうことで視野が広がる。  ・保育士に見守られながら、身の回りのものを見たり、音を聞いたり、触れたりする。  ・動くものを目で追ったり、音の鳴るものに反応したりして喜ぶ。  ・手のひらに触れたものを握ったり、なめたりして確認する。 | ・音の鳴るもの、硬さや感触の違うものなど、口に入れても安全に感覚が楽しめる玩具を準備しておく。  ・手足を十分に動かし、玩具をつかんだり、引っ張ったり、なめたりなど感覚を豊かに働かす遊びができるよう提供の仕方や環境を工夫する。  ・指先を使った遊びや、寝返り、這う、伝い歩きなどの全身を使う遊びが十分楽しめるように衛生的で安全な環境を整える。  ・保育士が玩具を握って見せたり、握らせたりして、目と手の協応を促す。  ・床や玩具の消毒、点検などを徹底し、安全衛生面に十分に配慮する。 |
| おおむね1歳未満 | | 内容 | | 環境構成・保育士の援助 |
| ねらい（〇養護　●教育） | 〇一人一人の子どもの生理的欲求を満たし、安定した生活リズムの中で気持ちよく生活が送れるようにする。  〇気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。  〇  ●保育士と一緒に全身を使った遊びやふれあい遊びを十分に楽しむ。  ●身近な人に優しく繰り返し応答してもらうことで、愛着心や信頼関係を深めていく。  ●視野が広がり、自然に触れたり、身の回りのものに働きかけたりすることを喜ぶ。 | 健やかに伸び伸びと育つ | **健康で安全な環境のもとで、落ち着いて生活する**  ・おむつが濡れたら替えてもらう。  ・睡眠のリズムが整い、一定時間眠る  ・気温や体調によって衣服の調節をしてもらう。  ・保育士と一緒に手を洗ったり、鼻水を拭いてもらう。  ・座る、這う、立つ、伝い歩きなど全身の動きを十分経験し探索活動をする。  ・離乳食に慣れ、手づかみで食べようとしたり、食べることを楽しむ。    ・さまざまな食品の味に慣れる。 | ・タイミングや機嫌を見て排泄に誘いながら、一人一人に合った方法や言葉がけでおむつ交換をする。  ・一人一人の生活リズムを大切にしながら、安心して眠れる環境を整える。  ・保育室内の室温、湿度に留意し快適に過ごせるようにする。  ・視触診・検温などで健康状態を把握し、変化が見られた時は適切に対応する。  ・食事前や入室後は消毒や手洗いを習慣づけ、感染予防や清潔な習慣が身につくようにする。  ・離乳食は、保護者や調理員（看護師）と連携し、一人一人に合わせた形状や量を提供する。  ・自分から食べようとする意欲を大切にして、一人一人の量や食べ方に合わせて援助する。 |
| 身近な人と気持ちが通じ合う | **身近な人との関わりを楽しむ**  ・思いを受け止めてもらい、優しく応答してもらう。一対一の応答関係を楽しむ。  ・ふれあい遊びなど保育士との関わりを楽しむ。  ・人の顔がわかり、特定の保育士にあやしてもらうことを喜んだり、知らない人を見て泣いたりする。  ・大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉がわかり、反応したり、行動したりする。  ・喃語が盛んになり、気持ちや欲求を声に出したり、表情や身振りで伝えようとする。  ・いないいないばあを自らするなど行為に参加しようとする。 | ・人見知り、不安、甘えなど、一人一人の感情表現をしっかり受け止め、応答やスキンシップなどで保育士との愛着心や信頼関係を築くようにする。  ・優しい声で名前を呼び掛けたり、歌を歌ったり、喃語に応答したりして保育士との一対一の関わりを十分にもつようにする。  ・喃語や動作から欲求や興味に気付き、気持ちをくみ取りながら発語につながる言葉かけや関わりを大切にしていく。 |
| 子どもの姿・発達の特徴 | ・離乳が始まり、いろいろな味や形状のものが食べられるようになる。咀嚼、嚥下を繰り返し、徐々に形や固さのある食べ物を摂取するようになる。舌で押し出したり、味を確かめたり、口をもぐもぐ動かしたり、飲み込んだりする。食べさせてもらったり、こぼしたりしながらも手づかみやスプーンで食べようとする。  ・一定時間安定して眠れるようになる。  ・寝返り、座る、這う、つかまり立ち、伝い歩きなど全身をよく動かす。引っ張る、つまむなど手を動かす。  ・好奇心が旺盛になり、探索活動が盛んになる。  ・身近な大人に自分の意思や欲求を指差しや身振りで伝えようとするなど、コミュニケーションの芽生えが見られるようになる。  ・大人との応答的な関わりの中で、自分に向けられた気持ちや簡単な言葉がわかるようになる。  ・特定の大人との愛着関係が育まれる。甘えたり、後追いをして泣いたり、人見知りをしたりする。  ・興味のある玩具に向かったり、好きな玩具で一人遊びをするようになる。 |
| ・一人遊びを集中して楽しみ、満足できるように玩具を準備し、環境を設定する。  ・戸外遊びや固定遊具、運動遊具などで歩く、登る、すべる、転がるなどの様々な動きが楽しめるようにし、保育士はすぐに補助できる位置につき、安全に遊べるように配慮する。  ・自然を感じたり、見たり、触れたりできるような散歩コースを事前に確認する。  ・ベビーカーでの散歩や戸外での遊びでは十分時間をとり、子どもの指差しや片言の言葉に応答的に関わったりして驚きや発見に共感する。  ・子どもが興味を示すようないろいろな色、形、音、材質の違う手作り玩具などを用意して、見たり、聞いたり、触ったりして五感を使った遊びを楽しめるようにする。  ・安全で清潔な環境の中、子どもが探索活動によって自由に触れ、十分に遊ぶことで興味や関心が満たされるようにする  ・色彩や図柄が鮮明で簡単なストーリーを楽しむ。 |
| 身近なものと関わり感性が育つ | **身近な環境に関わり楽しむ**  ・素材の感触を楽しみながら遊ぶ。  ・両手にものを握って打ちつけたり、興味のあるものをつまんだりして、手指を動かして遊ぶ。  ・好きな玩具・遊具に興味をもって関わり、様々な遊びをする。  ・散歩に出かけて外気や自然に触れたり、周りのものを見たりして喜ぶ。  ・聞く、見る、触るなどの経験を通して感覚器官（目・鼻・舌・皮膚）や指先の機能を高める。  ・しかけ絵本や好きな絵本を繰り返し読んでもらうことで、真似して言葉を発する。 |
| おおむね1歳 | | 内容 | | 環境構成・保育士の援助 |
| ねらい（〇養護　●教育） | 〇ゆったりとした家庭的な雰囲気を大切にし、一人一人の甘えや要求が十分に満たされるようにする。  〇保育士との愛着関係を基に身近な人や身の回りのものに自ら働きかける。  〇身の回りのことを自分でやりたいという思いに丁寧に応えることで子どもの気持ちが満たされるようにする。  ●一人遊びを十分に楽しみながら探索活動をする中で、身の回りのこと（環境）や友達にも興味をもつ。    ●保育士や友達と関わる中でいろいろな言葉を獲得し、使うことを楽しむ。 | 健康 | **健康的な生活リズムで過ごし、体を動かして遊ぶ**  ・食べたいという気持ちが高まり、スプーンやフォークなどを使って食べようとする。  ・排泄した後、出たことを言葉やしぐさで伝えようとする。  ・トイレで排泄することに興味をもち、少しずつ慣れていく。  ・ズボンや靴下など、脱いだり履いたりする。  ・歩いたり、しゃがんだり、背伸びをして、全身を使って遊ぶ。  ・高いところに登ろうとする。    ・積む、つまむ、転がす、はがすなど手や指を使って遊ぶ。 | ・味覚や嗅覚などの発達に伴い食物に対する好き嫌いが出てくる。子どもの食欲や食事にかかる時間の個人差に十分配慮し、食べる意欲を引き出していく。  ・一人一人の子どもの排泄間隔を把握し、排泄を感じた時の動作を見逃さず誘導することにより、トイレで排泄する経験が重ねられるようにしていく。  ・子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう身の回りのものについては常に十分に点検を行う。  ・段差や傾斜を上り下りしたり、くぐったりなど全身や指先を使う遊びが楽しめるようにする。  ・感染症の罹患が増えやすいため、体調管理に注意する。 |
| 人間関係 | **保育士や友達への興味・関心が高まる**  ・保育士に見守られながら、安心して好きな遊びを楽しんだり、関わってもらうことを喜んだりする。  ・保育士との安心できる関係の中で自分の気持ちをのびのびと表現する。  ・身の回りに様々な人がいることに気付く。  ・保育士の仲立ちによって他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけるようになる。 | ・子どもの動きや表現をその場でとらえ、共感したり、誉めたり励ましたりすることで、子どもの意欲を伸ばしていく。  ・一人一人の気持ちを理解し、受けとめることにより子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。  ・泣いて訴える、拒否する、手が出てしまうなど様々な感情の表出に対し、しっかりと子どもの気持ちを受容し、汲み取るようにする。  ・遊びを一緒に楽しむ中で、子どもが他者の存在を感じ、お互いに関わりを楽しめるよう援助していく。 |
| 子どもの姿・発達の特徴 | ・自我が芽生え始め自己主張しようとするが、自分の思いが表現できなくて泣いて叫んだりする。  ・しぐさや簡単な言葉でパンツやおむつが濡れたことを知らせたり、保育士に促されてトイレに行ったりするようになる。  ・簡単な衣服の着脱を保育士と一緒にしようとする。  ・手洗いなど、保育士や友達の真似をして、自分でしようとする。  ・食べ物の好き嫌いが出てくる。  ・身の回りのことをやってみようとする気持ちが強くなり、保育士の援助を「イヤ」と拒んだり、「自分で」と主張を通そうとする姿が見られる。（駄々をこねる）  ・探索活動に心そそられ、身近な人や身の回りにあるものに自発的に働きかけていく。  ・歩く、走る、登る、跳ぶなど一般的運動の基礎ができる  ・思いをうまく伝えられず、物や場所の取り合いなどで噛みつきやひっかきなどの行動に出ることがある。  ・玩具を取り合ったり、簡単な言葉で不満を訴えたりしながら、大人との関わりとは異なる子ども同士の関わりが育まれていく。  ・指さし、身振り、片言で意思を表し、簡単な言葉のやりとりを楽しむようになる。  ・人形をトントンするしぐさなど、見立て遊びをする。  ・繰り返しのある絵本や気に入った絵本、仕掛け絵本などを喜んで見る。  ・並行遊びが中心になる。  ・目の前にはない場面や事物を頭の中でイメージして、遊具などで見立てるという象徴機能が発達してくる。 |
| 環境 | **身近な環境に親しみ触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ**  ・好奇心が盛んになり、様々なものを見たり触れたりして楽しむ。  ・探索活動が活発になり、遊びへの興味や関心が広がる。  ・散歩や戸外遊びを通して、虫や草花など自然に親しむ。  ・指先を使えるようになり、砂遊びでシャベルを使ったり、粘土遊びをしたり、ぐるぐると丸を描くなどして喜ぶ。 | ・この時期は一人で遊べることも大切にし、自分のやりたいことをじっくりと満足できるまで遊べるような環境を作る。  ・危険の判断や行動の抑止力の発達が十分ではないため、保育士が素早く行動して危険を回避し、子どもが安全に活動できる環境を整える。  ・数人ずつ散歩に出かけ、自然物を見たり触れたりする機会を多くもつ。  ・指先が発達する時期を生かし、遊びの中で様々な手指の動きができるようにする。 |
| 言葉 | **保育士の言葉を真似たり、思ったことを伝えようとする**  ・自分の要求を身振りや指さし等で保育士に伝えようとする。  ・片言や簡単な言葉などで思いを伝えようとする。。  ・絵本や紙芝居を楽しみ、絵を指さして名称を言ったり、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。 | ・子どもの発語や指さしには、言葉で優しく応答的に関わるようにする。  ・自分の思いを表現したい、伝えたいという気持ちを大切にし、言葉にならない思いも丁寧に受けとめる。  ・子どもが興味をもって見たり触ったりしているものの名前を保育士が言うことで、言葉に親しむ機会を作っていく。  ・絵本の中に身の回りの物を見つけて、見立て遊びへとつなげていく。 |
| 表現 | **いろいろな感覚遊びや表現遊びを楽しむ**  ・いろいろな素材を使って、感覚遊びを全身で楽しむ。（小麦粉、粘土、スライム、砂、土、水など）  ・保育士と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びや体操を楽しむ。  ・生活の中で様々な音、形、色、手触り、味、香り等に気付く | ・子どもの感じ取ったことや心を動かされたことに共感し、子どもの感動や発見に寄り添っていく。  ・五感の発達を促す遊びを楽しむことができるよう、いろいろな色、形、音、材質の違う玩具などを準備し、子どもが自発的に触れることができるようにする。 |
| おおむね2歳 | | 内容 | | 環境構成・保育士の援助 |
| ねらい（〇養護　●教育） | 〇生活や遊びの中で一人一人の気持ちを十分に受けとめ、安心して過ごせるようにする。  〇気温の変化や体調に留意し、健康に過ごせるようにする。  ●保育士に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことが自分でできる喜びを味わう。  ●保育士や友達と一緒に言葉のやり取りをしたり、体を動かして遊ぶことを楽しんだりする。  ●保育士に受容されながら生活や遊びの中に決まりがあることに気付く。 | 健康 | **身の回りのことを自分でしようとする**  ・楽しい雰囲気の中でいろいろな食材に興味をもって意欲的に食べる。  ・スプーンやフォークを使って一人で食べようとする。  ・尿意、便意を言葉で知らせ、自分でトイレに行き、排泄しようとする。  ・簡単な衣服の着脱を自分でしようとする。  ・保育士や友達と一緒に散歩に出かけ、戸外で歩く、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶ。 | ・食事の時間を楽しく思うことができるような雰囲気づくりを心掛ける。  ・自分で食べようとする気持ちを受けとめ、スプーン等の持ち方や扱いがうまくできるよう、さりげなく援助をする。  ・トイレには保育士が付き添い、排泄後の手順については丁寧に言葉や手をかけながら教えていく。  ・生活リズムが安定し、身の回りのことが自立してくる時期だが、自我の芽生えが見られ、感情が不安定になりやすいので、保育士は感情的にならず忍耐強く関わるようにする。  ・衣服の着脱は、自分でしようとする気持ちを尊重するとともに手伝ってほしいという気持ちにも配慮する。  ・ボタンのはめはずしやひも通しなど指先の発達を促し衣服の着脱につながる遊びを取り入れる。 |
| 人間関係 | **周囲の子ども達への関心が高まり、関わって生活する**  ・生活や遊びを通して、友達と関わることを楽しむ。  ・並行遊びが中心だが、気の合った友達と場所や空間を共有することを楽しく感じる。  ・保育士や友達と一緒に簡単なごっこ遊びや集団遊びをする。  ・友達との関わりの中で簡単な約束や順番を知る。  ・行事等で異年齢児と関わり、親しみをもつ。 |
| 子どもの姿・発達の特徴 | ・パンツを脱ぎ、トイレに行って排泄するようになる。  ・保育士に手伝ってもらいながら、衣服や靴の着脱をする。  ・保育士と一緒に手洗いやうがいをしようとする。  ・スプーン・フォークを使って、こぼしながらも自分で食べることを楽しむ。  ・運動機能が高まり、全身や手指の動作が発達し、走る、跳ぶ、蹴る、ぶら下がることなどをして遊ぶ。  ・身体運動のコントロールもうまくなるので、リズミカルな運動や音楽に合わせて体を動かすことを好むようになる。また、指先の動きも急速に進化する。  ・他の子どもとの関わりを少しずつ求めるようになる。  ・自己主張が強くなり、なだめても自分を通そうとするため、トラブルも多くなる。  ・保育士の真似をして、遊び方や生活の仕方を覚えていく。  ・発声はより明確になり、語彙も増加し、自分のしたいこと、してほしいことを言葉で表出できるようになる。  ・保育士や友達と一緒に人形の世話をしたり、買い物ごっこをするなど、ごっこ遊びを楽しむ。  ・繰り返しのリズミカルな絵本を喜び、言葉で表現し友達と楽しさを共有するようになる。  ・保育士や友達と一緒に、季節の歌を歌ったり、リズムにのって体を動かしたりする。 | ・友達との関りの中でうまく思いを伝えられないことから、トラブルになることが増えるが、保育士が双方の思いをくみ取り仲立ちを行なう。  ・生活や遊びの中での簡単な約束やルールを、発達の違いに関わらず理解できるよう伝え方(提示の仕方)を工夫する。  ・行事の中で、大きい子に優しくリードしてもらったり、小さい子と一緒に楽しんだりする機会を作る。 |
| 環境 | **見る・聞く・触るなどの経験を楽しむ**  ・身近な小動物、草花や栽培している野菜などを見たり、触れたりして興味・関心をもつ。  ・散歩に出かけ、近隣の方と挨拶を交わしたり、草花や虫などに触れたりする。  ・「自分の場所」「自分のもの」という所有の意識が明確になる。  ・簡単な分類ができ、玩具の区分された棚などがわかり、自分で出し入れをする。 |
| ・保育室は明るく清潔に整え、楽しい雰囲気にする。  ・外遊びや散歩の際に身近な動物や植物を見たり触れたりする機会を大切にし、探索を重ねる中で周囲のことに対して好奇心がもてるようにし、保育士もそれに共感する。  ・「自分のもの」で安心して遊びこめる「場所がある」という感覚をもつことができる環境を工夫する。  ・ままごとや人形など玩具の置き場所を決め、子どもが自分で出して遊んだり片付けたりしやすいように環境を整える。 |
| 言葉 | **会話の楽しさを知り、言葉で伝えようとする**  ・ものに名前があることがわかり「これな～に？」を連発する。  ・日常生活に必要な簡単な言葉を理解し、自分の思いや要求を言葉や態度で伝えようとする。  ・友達と一緒に絵本を見て、簡単な言葉を繰り返したり、ごっこ遊びをする中で友達との言葉のやりとりを楽しむ。 |
| ・一緒に遊びながらものと言葉、行動と言葉を結び付けて知らせ、気付くようにしていく。  ・子どもの伝えたい気持ちを感じ取って言葉にしたり、状況を見ながら言葉をかけたりするなどゆったりとやり取りし、会話の楽しさを知らせていく。  ・好きな絵本や歌、手遊びなどを保育士とともに楽しむ経験を重ね、子どもの言葉や表現を豊かにしていく。 |
| 表現 | **豊かな体験を通して、イメージの世界でのごっこ遊びを楽しむ**  ・様々な素材に触れて全身でその感触を楽しむ。  ・保育士や友達と一緒に歌ったり、楽器を鳴らして遊んだり、手遊び、体操を楽しむ。  ・生活や遊びの中で得た情報や印象に残った出来事などからイメージする力が豊かになる。  ・指先の操作も発達し、粘土遊びやクレヨン、はさみなどを使って作ったり描いたりする。 |
| ・いろいろな道具や素材を用意することで、表現することの楽しさを重ねていけるよう配慮する。  ・子どもたちがごっこ遊びをゆっくり楽しめるよう場所や時間に余裕をもって計画する。  ・子どもの表現する世界を一緒に楽しみながら、そのイメージを広げるような関わりをすることで、さらにその表現が豊かになっていくように援助する。 |
| おおむね3歳 | | 内容 | | 環境構成・保育士の援助 |
| ねらい（〇養護　●教育） | 〇季節の変化に応じて、健康的で安全な環境を作り快適に過ごせるようにする。  ●生活習慣や身の回りのことを自分でしようとする  ●保育士と一緒にいろいろな遊びを楽しむ。  ●遊びの中で自分の思いを表現し、簡単なルールを守って友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。  ●保育士や友達と一緒に自然現象に興味・関心をもち親しむ。  ●経験したこと、思ったこと、感じたことなどを自分なりに表現することを楽しむ。 | 健康 | **生活の仕方を知り、健康に過ごす**  ・楽しい雰囲気の中で様々な食べ物を進んで食べようとする。  ・身の回りの清潔や衣服の着脱、排泄、手洗い、うがいなど身の回りのことを自分でしようとする。  ・様々な遊びに興味をもち保育士や友達と取り組む中で、体を動かす楽しさを感じる。  ・安全に気をつけて遊具や用具を使ったり、危険な場所や遊び方に気付いたりする。 | ・子どもの動きを見ながら1日の流れを工夫し、動きたい欲求を満たすような場を設定していく。  ・土、砂、水などに十分に触れたり、様々な体の動きが引き出せるように固定遊具や所外保育を活用するなど、戸外での遊びを充実させる。  ・一人一人の興味や関心に合わせて、遊びに使うものが自由に使えるよう、わかりやすい表示の工夫をしたり、遊具や用具の種類や数量に配慮する。  ・身の回りのことを自分でやりたい気持ちを大切にし、取り組みやすい場や空間を用意したり、覚えやすい目印や手順を具体的に知らせ「自分でやれた」実感がもてるようにする。  ・子どものペースに合わせてゆったりできる場を用意する。 |
| 人間関係 | **生活や遊びの中で、きまりを守ろうとする**  ・自分なりの動きをしながら、みんなと過ごす楽しさを感じる。  ・友達と遊ぶ中で友達がしていることや動きや言葉に関心をもち、相手にも様々な思いがあることを感じる。  ・遊具や用具などを貸したり借りたり、順番を待ったり交代したりして遊ぶ。  ・生活に必要なことを自分からしたり、周りの子どもの動きを見いて気付いたことを自分でしたりしようとする。  ・みんなと遊ぶ中で、してよいことやしてはいけないことに気付く。 |
| 子どもの姿・発達の特徴 | ・好き嫌いもあるが、食べることに意欲的である。  ・保育士が見通しをもって声をかけ、トイレに行く習慣を身につける。うまくいかないこともあるが、自分からトイレに行こうとする姿が見られる。  ・生活のリズムを知り、身の回りのことを自分でしようとする。  ・基本的な生活習慣がある程度自立するようになることで「何でも自分でできる」という意識が育ち、大人の手助けを拒むことが増える。  ・自分のものと友達のものとの区別ができるようになる。  ・周りの友達や遊びに関心をもち、自分から進んでいろいろな活動に取り組もうとする。  ・玩具などの取り合いによるトラブルもあり、自己主張する姿が見られるが、徐々に友達と分け合ったり、順番に使ったりするなどきまりを守ることを覚える。  ・自分のしたい遊びを見つけることができ、落ち着いて遊べるようになる。  ・他の子どもの遊びを模倣したり、遊具を仲立ちとして子ども同士で関わったりするが、並行遊びも多い。  ・順番や交代、並ぶなど共通のきまりがあることを知り、意識して過ごす。  ・人と関わる挨拶の言葉を使うようになり、言葉を交わす心地よさを体験していく。話し言葉の基礎ができ、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。  ・大人の行動や日常生活において経験したことをごっこ遊びに取り入れるなど、象徴機能や観察力を発揮して遊びに発展性が見られるようになる。 | ・生活環境が大きく変化した当初は緊張や不安が大きいため安心して好きな遊びができるように室内外の環境を整える。また一人一人の思いを丁寧に受けとめ、小さなサインも見逃さないようにし、一緒に遊びながら保育士への信頼感が育まれるようにする。  ・友達とのやり取りの中で、自分の思い通りにならないことも増えるが、一人一人の思いに共感し受けとめるとともに、友達の気持ちに気付くよう援助していく。  ・生活に必要なきまりは焦らず、日々の生活の中で必要感を伴って身につくようにしていく。 |
| 環境 | **身近な環境に親しみ、興味や関心をもつ**  ・身近な遊具や用具に関心をもち、自分たちで自由に使ったり遊んだり、感触を楽しんだりする。  ・野菜や花の栽培、小動物や昆虫、木の実や木の葉などの自然物に関心を示し、好奇心をもって見たり、触れたりして遊ぶ。    ・自分のもの、他人のもの、共同の遊具などの区別がわかり大切にしようとする。  ・所内の様々な表示に関心をもつ。 |
| ・遊具や素材に十分に関わって遊べる場や時間、数量などに配慮する。  ・片付けやすい場やわかりやすい表示などを工夫し、形や大きさなどを意識して片付けられるようにする。  ・風や雨、陽の光、花の香りなど自然界の事物に感覚を通して触れることを大切にし、子どもに気付かせたり、共感する。  ・保育士がものに愛着を持ち、大切に取り扱う姿を通して、ものを大切に丁寧に扱う心を育てるようにする。 |
| 言葉　　　　表現 | **自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう**  ・みんなと一緒に保育士の話を聞くことを楽しむ。  ・生活の中で必要な言葉の意味を理解し、自分も使ってみる。  ・安心して自分から保育士や友達に話をしようとする。  ・絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりすることを楽しむ。  **自分なりに表現して楽しむ**  ・見たものや感じたものになりきって遊んだり、友達とストーリーに沿って動くことを楽しんだりする。  ・自分の発見や感動を保育士や友達に伝える楽しさを味わう。  ・いろいろな素材を使って描いたり作ったりして遊ぶ。  ・クレヨンやはさみ、のりなどの使い方を知り、自分なりに使って遊ぼうとする。 |
| ・保育士の話を聞き楽しいと思う機会を重ねることで、伝えることに意欲的になれるよう導く。  ・子どもの興味・関心や季節に合わせて、絵本や紙芝居などの教材を選び、読み聞かせイメージを豊かにする。  ・子どもの小さな発見や感動を見逃さず、温かく受けとめ、認めたり共感したりしていく。  ・見立てたりなりきって遊んだりする楽しさを十分味わえるように素材や衣装などの補助遊具を用意する。  ・様々な素材で絵を描いたり、作ったりできるよう時間や場、数量を確保する。 |
| おおむね4歳 | | 内容 | | 環境構成・保育士の援助 |
| ねらい（〇養護　●教育） | 〇季節の変化に応じて健康で安全な環境を作り、進んで自分のことを自分でしながら快適に過ごせるようにする。  ●健康で安全に過ごすための基本的な生活習慣を身につけ、自分から進んでしようとする。  ●保育士や友達と一緒に戸外に出て体を動かして遊ぶことを楽しみながら、決まりやルールの大切さに気付き、守って遊ぶことの楽しさを味わう。  ●いろいろな遊びに興味・関心をもってやってみようと取り組み、自分の力を発揮する。  ●季節の移り変わりを感じながら自然現象に興味をもって関わり、様々な遊びに取り入れて夢中になって遊ぶ。  ●興味・関心のある遊びを楽しむ中で、気の合う友達と見たこと感じたことを自分なりに表現し、伝え合いながらつながりを深める。 | 健康 | **健康に関心をもち、体を十分に動かして遊ぶ**  ・保育士や友達と一緒にイメージを広げたり戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。  ・遊びや生活に必要な準備や片付けなどのやり方がわかり、進んで行なう。  ・自分の健康に関心をもち、うがい、手洗いや衣服の調節などを進んで行なう。  ・食べ慣れないものや苦手なものでも少しずつ食べようとする。 | ・様々な動きを楽しめるよう遊具や用具、音楽などの環境や雰囲気づくりを工夫する。  ・一人一人の興味や関心、イメージなどが豊かになってくる。戸外遊びも運動遊びだけでなく遊びの拠点となる遊具や用具を工夫し、イメージを実現できるようにする。  ・保育所での生活に必要な基本的な生活習慣について、子どもたちが必要性を感じながら身につけていけるようにする。  ・自分たちで栽培した野菜を調理して食べたりすることをきっかけに、食べたことのない食材や苦手な食べ物に興味をもって食べられるよう一人一人に寄り添いながら援助する。 |
| 人間関係 | **友達と一緒に過ごす中で、相手の思いに気付く**  ・保育士や友達がしていることに興味や関心をもち自分の遊びに取り入れたり、一緒に遊んだりして楽しむ。  ・周囲の友達に親しみを感じ、自分の思いを伝えながら、相手の気持ちを感じ取る。  ・クラスのみんなで活動する楽しさがわかり、友達とのつながりを感じながら自分の力を発揮する。  ・みんなと遊ぶ中でルールや流れがわかり、意識し守ろうとする  ・共同の遊具を大切に使い、譲り合って使おうとする。  ・年下の子どもに親しみをもったり、年上の子どもの様子に関心をもち、積極的に関わっていこうとしたりする。 |
| ・友達との関わりがもてる場を工夫し、保育士が仲立ちとなって友達との接し方や遊びへの参加の仕方などを援助し、友達と遊ぶ楽しさを十分味わえるようにする。  ・友達と一緒に遊ぶ中で、友達の思いに気付くようにしながら、みんなで楽しく遊ぶためのルールやきまりの必要性がわかるようにしていく。  ・異年齢の子どもの遊びが互いに見えるよう遊びの場を設定し、互いに関心をもったり自然に交流したりできるようにする。その中で憧れや思いやりの気持ちがもてるようにする。 |
| 子どもの姿・発達の特徴 | ・生活に必要な習慣が身につき、自分でできることは自分でしようとする。  ・遊具や用具の安全な使い方を知り、いろいろな遊びを楽しんだり、挑戦したりする。  ・気の合う友達と誘い合ってじっくり遊ぶようになり、仲間意識が芽生え始める。  ・ルールを守ったり、交代しながら遊んだり、順番を待つことができるようになる。  ・保育士や友達と一緒に運動遊びや集団遊びなどのルールのある遊びを楽しむようになる。  ・競争心が芽生え、勝ち負けを意識するようになる。  ・身近な自然に興味をもち、散歩や戸外遊びを通して小動物や草花等の様々な発見を楽しみ拾った木の実や木の葉などの大小、色、形を友達と比べたりして遊ぶ。  ・身近な動植物の世話をして、成長（生長）や変化に気付き、興味・関心をもつ。  ・自分の思いや考えを言葉で伝えられるようになる。  ・身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちを抑えたり、我慢したりできるようになる。  ・気の合う友達と遊ぶ中でイメージを膨らませ、互いの思いや考えを伝えたり、遊びに必要なものを作ったりして楽しむ。  ・紙芝居や絵本を見たり聞いたりして。言葉のやり取りを楽しんだり、なりきってごっこ遊びをしたりする。 |
| ・花びらや落ち葉、木の実などを遊びの中に取り入れ自然への関心がもてるようにする。  ・自然に変化があることに気付くよう子どもの発見を見逃さずに受けとめたり共感したり保育士自身が変化を敏感に感じ取る。  ・子どもの好奇心を大切にし、遊びに没頭できる時間や場を保証する。 |
| 環境 | **身近な環境に自ら関わり、生活に取り入れようとする**  ・身近な自然に興味をもち自分なりに考えたり試したりして遊びを楽しむ。  ・身近な道具の使い方がわかり、様々な場面で積極的に使う。  ・身近な動植物に親しみ、見たり触ったり保育士と一緒に世話をしたりする。  ・必要なものを自分なりに考えて作り、遊びに取り入れる。  ・ものを大切に扱い、保育士と一緒に分類したり整理したりする |
| ・自分なりの言葉で表現している姿を認め、自信がもてるようにするとともに、相手に伝わった喜びを感じられるよう、子ども同士のやり取りの場面を大切にする。  ・遊びの中で一人一人の思いを受けとめトラブルが生じた時は互いの気持ちを代弁し、葉で相手にわかるように伝えることの必要性に気付かせていく。 |
| 言葉 | **伝え合う喜びを味わう**  ・保育士や友達の話を親しみをもって聞いたり、耳を傾ける。  ・保育士や友達に親しみをもって挨拶をしたり、言葉のやりとりを楽しんだりする  ・絵本や紙芝居などの内容や筋がわかり、ストーリーの展開を楽しみ、イメージを広げる。 |
| ・人一人のイメージを広げたり、膨らませたりできるような絵本、物語、歌などを子どもの興味や遊びの状況に合わせて提示していく。  ・感動したことを表現したい、様々な役になりきりたいなどの思いを受けとめ、お面や衣装、音楽などを子どもたちで使えるよう環境を工夫し、より活動を楽しめるようにする。  ・作ったり描いたりすることに意欲がわくような材料を豊かに用意するとともに、表現する過程を大切にする。  E:\illust\03_tuki\13_nenkan\03_frame＆kei＆title\color\00-line411.png |
| 表現 | **イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ**  ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な素材や用具、方法などで自由に表現し、書いたり作ったしたもので遊ぶ。  ・リズムに合わせて動いたり、クラスの友達と気持ちを合わせて歌ったり、楽器を楽しんだりする。 |
| おおむね5歳 | | 内容 | | 環境構成・保育士の援助 |
| ねらい（〇養護　●教育） | 〇一人一人の成長を認め、年長児としての自信や自覚をもって、健康で安全に過ごせるようにする。  ●同年齢や異年齢の友達と一緒に体を動かして遊び、つながりを深める。  ●自分の目的に向かって根気強く取り組み、満足感や達成感を味わう。  ●友達と共通の目的をもち、遊びのルールを考えたり、思いを出し合いながら協力して取り組み、満足感や達成感を味わう。  ●身近な事象に興味をもち、見たり感じたりしたことを友達と一緒に調べたり試したりして、関心を高める。  ●自然物や動植物に興味・関心をもち、世話をしたり観察することで命の大切さに気付く。  ●友達と思いや考えを言葉や表現で伝え合いながら、一緒に繰り返し遊ぶ楽しさを味わう。 | 健康 | **見通しをもって行動する**  ・1日の生活を予測したり、見通したりして自分なりに行動する  ・健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、自信をもって生活する。  ・全力で挑戦し、全身を使って遊ぶ気持ちよさを味わう。  ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断してやめようとする  ・災害時の危険を知り、合図や指示に従ったり、自分で考えて行動する。 | ・全身を使った複雑な動きができるようになるため、様々な遊具を使った遊びや体の動きが体験できるよう環境を工夫する。  ・ダイナミックな遊びをする中で危険を回避する力が身につくようにする。遊具等については正しい扱い方を丁寧に指導し理解した上で遊ぶことができるよう配慮する。  ・日々の経験を通して災害時に自ら考えて行動することが身につくようにする。  ・遊具等の出し入れが子ども達自身で行えるよう場の設定や表示などを工夫する。 |
| 人間関係 | **友達と一緒に過ごす中できまりや仲間意識を身につける**  ・友達と一緒に力を合わせて遊ぶ楽しさを味わい、ルールを守って繰り返し遊ぶ。  ・チームの友達と力を合わせ、他のチームと勝敗を競う楽しさや悔しさを仲間と共感する。  ・友達と一緒にイメージを膨らませたり相談したりしながら遊びを進めていく。  ・友達と目的をもち、つながりを実感して遊びに取り組む中で仲間意識を高める。  ・異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりの気持ちをもつ。 |
| ・友達同士で認め合ったり、考えを出し合ったりして遊びが進められるように見守り、状況に応じて援助する。  ・勝ち負けだけにとらわれず、精一杯取り組むことの大切さを伝えていく。  ・思いの違いからトラブルが生じた時には、気持ちを伝えあう時間を設け、一緒に遊びが発展できるようにする。  ・生活や遊びの中で自信がもてるようにし、就学に向けての期待につながるようにしていく。 |
| 子どもの姿・発達の特徴 | ・戸外で遊ぶことを喜び、なわとびや鬼ごっこなど体を巧みに動かして遊ぶことを好んでするようになる。  ・生活や活動に見通しをもち、自信をもって行動する姿が見られ、友達と一緒に当番活動をしたり保育士の手伝いをしたりする。  ・自分なりの目的をもって繰り返し取り組み、友達と教えあったり、競い合ったりして楽しんで遊ぶ。  ・周りの友達に刺激を受けて挑戦したり、できたことを一緒に喜んだりする姿が見られる。  ・友達と協力して活動に取り組む中で仲間意識が強くなり、遊びを楽しくするために自分達でルールを作っていく  ・思いや考えが食い違い、譲れないことでトラブルになることがあるが、友達の思いを受けとめようとしたり、自分の思いや考えを伝えたりしながら、自分達で解決しようとする。  ・次第に友達が自分とは違う考えをもっていることに気付き、自分から我慢したり譲り合ったりする姿が見られるようになってくる。  ・数字や文字に触れる機会が多くなり、読んだり書いたりすることに興味・関心が高まる。  ・自然現象に興味をもち、感じたことなどを保育士や友達に伝えたり、自然物を遊びの中に取り入れ、試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られる。 |
| 環境 | **身近な事象にかかわり、感覚を豊かにする**  ・季節の変化や自然現象に興味や関心をもち、考えたり試したりする。  ・好奇心や探求心をもって自然物に関わり、関心を深める。  ・身近な昆虫や小動物を探して遊び、命を大切にする意識をもつ  ・植物の栽培に興味・関心をもち、生長や変化に気付く。  ・時計や時間に関心をもち意識して生活に取り入れようとする。  ・遊びや生活の中で、文字や数字に関心をもつ。 | ・自然の変化や自然現象など子どもの気付きや疑問に共感し、それらが遊びや活動につながっていくよう環境設定(本や材料、場所や空間)に配慮する。  ・遊びの目的やイメージが共通になるように、子ども達と相談しながら必要な材料などを整理し、扱いやすい場所に置く  ・自分達で栽培、収穫したものを調理したり食べたりすることにより収穫できた喜びや、感謝の気持ちがもてるようにする。  ・日常生活の中で数量や文字に対する関心をもち遊びを楽しむ中で、数量や文字に対する感覚が豊かになるようにする |
| 言葉 | **言葉に対する感覚を豊かにし、友達や保育士と心を通わせる**  ・考えたこと疑問に思ったことを相手にわかるように言葉で伝えたり、グループの中で自分の考えをみんなにわかるように話す  ・絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わったり自ら表現したりして言葉の面白さや美しさに興味をもつ |
| ・遊びや生活の中で文字に対する関心がもてるような環境を用意するとともに、一人一人の興味や個人差に配慮しながら、子どもが覚えたい時にその必要に応じて読んだり書いたりする体験が楽しめるようにする。  ・グループで話し合う機会を計画的に設け、友達に自分の気持ちや考えをわかりやすく話すことの大切さに気付くようにする。 |
| 表現 | **友達と一緒に様々な表現を楽しむ中で、感性が豊かになる**  ・グループの友達と共通の目的をもって、描いたり作ったりする  ・音楽を聴いたり、歌を歌ったり、曲に合わせて楽器を使ったりする楽しさを味わう。  ・イメージを動きや言葉などで表現したり演じたりして楽しむ。 |
| ・遊びの中で使うものを作ったりイメージに近いものを作ることができるように、素材や材料を取り出しやすいところに用意する。  ・表現を引き出すきっかけになるような音楽、歌、絵本などを準備し遊びの中で使えるようにしておく。 |